

寄贈図書リスト

惑星地質学, 宮本英昭, 橘 省吾, 他, B5 判, 3,200 円
+ 税, 246 頁, 東京大学出版会

DVD では始める天体観察入門, 浅田英夫, 他, アスト
ローツ, A4 変形判, 128 頁, 2,200 円+税, (株)
アスキー

書評をご執筆の方には, 上記の図書を差し上げます。
ご希望の方は toukou@geppou.asj.or.jp まで。

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載致
します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお
申し込み下さい。

e-mail で jimu@geppou.asj.or.jp 宛。

なお, 原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

広島大学大学院理学研究科教員

1. 教授 1 名
2. 物理科学専攻
3. X 線及びガンマ線観測衛星による観測研究をリードし, 次期 X 線観測衛星に搭載する観測機器を開発するとともに, 広島大学宇宙科学センターと協力し高エネルギー宇宙物理学分野で多波長観測研究を推進する研究者。大学院及び学部教育に積極的に取り組んで頂ける方。
5. 決定後できるだけ早い時期
6. 博士号取得者
7. ○履歴書 (写真添付, e-mail アドレス明記), ○業績リスト (原著論文, 解説記事, 招待講演, 外部資金取得状況を含む), ○主要論文別刷 (5 編以内), ○研究概要と今後の研究計画 (A4 判 2 枚程度), ○教育に関する経験と着任後の抱負 (A4 判 2 枚程度), ○推薦書または意見書 (2 通)
8. 2008 年 4 月 14 日 (月) (必着)
9. (1) 〒739-8526 東広島市鏡山 1-3-1
広島大学大学院理学研究科物理科学専攻
専攻長 黒岩芳弘

- (2) 同専攻 教授 杉立 徹

Tel: 082-424-7376

e-mail: sugitate@hiroshima-u.ac.jp

10. 封筒の表に「応募書類在中」と朱書し, 簡易書留で送付のこと。原則として, 提出書類の返却はしない。

茨城大学理学部教員

1. 教授もしくは准教授 1 名
2. (1) 国立大学法人茨城大学理学部
(2) 茨城県水戸市
3. 電波天文学
4. 茨城大学は, 国立天文台及び地域自治体と連携し, 旧 KDDI 茨城衛星通信所のアンテナを電波望遠鏡に転換し, 先端的な宇宙観測の研究教育及び地域振興を推進する全学プロジェクト (期間 5 年) を発足させます。本公募は, このプロジェクトにおいて, 超長基線干渉計 (VLBI) による観測研究及び教育等に中心的役割を果たす方を求めます。
5. (1) 平成 20 年 8 月 1 日
(2) 5 年 (再任なし)
6. 博士の学位を有すること
7. (1) 履歴書 (写真貼付), (2) 研究業績リスト: 論文リスト (査読付きとそれ以外に分ける), (3) 主要論文別刷 3 編以内のコピー, (4) これまでの研究内容 (A4 で 2 頁以内), (5) 学会及び社会貢献の活動, (6) 過去 5 年間における競争的研究資金の獲得状況, (7) 今後の研究・教育についての計画と抱負 (A4 で 2 頁以内), (8) 応募者について意見を聞ける方 2 名の連絡先
8. 平成 20 年 4 月 24 日 (木) (必着)
9. (1) 〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1
茨城大学理学部教員選考委員会

委員長 横沢正芳

(2) 茨城大学理学部教員選考委員会

委員 百瀬宗武

Tel: 029-228-8402

e-mail: momose@mx.ibaraki.ac.jp

10. 必要に応じてインタビューを実施します。応募書類は封筒に「VLBI 人事応募書類」と朱書し、簡易書留で郵送して下さい。応募書類は返却いたしません。教員公募に関連して提供された個人情報については、選考の目的に限って利用し、選考終了後は、選考を通過した方の情報を除き、全ての個人情報を責任を持って破棄いたします。

東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教員

1. 助教 1名
2. (1) 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻
(2) 東京都文京区本郷 7-3-1
3. 宇宙物理学実験
4. ミリ波, サブミリ波, テラヘルツ波による星間物質の観測的研究やそのための新しい観測装置の開拓的研究に意欲的に取り組む方。学部, 大学院の教育にも参加する。当該分野の山本智(教授)と協力して, 研究・教育にあたって頂きます。
5. 採用決定後できるだけ早い時期
6. 博士の学位を有する(取得見込みも含む)か, それと同等以上
7. (1) 履歴書(写真貼付), (2) 業績リスト, (3) 研究業績の概要(A4用紙2枚程度), (4) 研究計画(A4用紙1枚程度), (4) 主要論文別刷(コピー可)3編, (5) 照会可能な方2名の氏名, 所属, 職名, 連絡先(e-mail アドレスを含む)
8. 2008年4月30日(水)必着
9. (1) 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院理学系研究科物理学専攻
専攻長 内田慎一
(2) 同上
山本 智
Tel: 03-5841-4197
e-mail: yamamoto@phys.s.u-tokyo.ac.jp
10. 封筒に「宇宙物理学実験助教応募書類在中」と朱書し, 簡易書留で送付のこと。なお, 提出書類は返却しません。適任者がいない場合は採用を見送ることがあります。

東北大学大学院理学研究科天文学専攻 教官公募

1. 助教 1名
2. 東北大学大学院理学研究科天文学専攻
3. 理論天体物理学
4. 研究, 大学院及び学部教育の担当
5. 採用決定後なるべく早い時期
6. 大学院博士課程修了, またはそれと同等以上の方
7. (1) 略歴書(写真貼付), (2) 研究歴(これまでの研究内容の概観), (3) 研究論文リスト, (4) 主要論文別刷(コピー可, 3編以内), (5) 着任後の研究計画と抱負, (5) 本人について意見を述べられる方2名(国内外を問わない)の氏名と連絡先(e-mail address)
8. 2008年4月末日必着
9. 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉
東北大学大学院理学研究科天文学専攻
専攻長 二間瀬敏史
Tel: 022-795-6504, Fax: 022-795-6513
e-mail: tof@astr.tohoku.ac.jp
10. 封筒の表に「人事応募書類」と朱書し, 簡易書留で郵送してください。

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果(前所属)
3. 着任時期

立教大学理学部物理学科教員 (教授または准教授)

1. 2007年9月(第100巻9号)
2. 田口 真(国立極地研究所)
3. 2008年4月1日

立教大学理学部物理学科教員(助教)

1. 2007年9月(第100巻9号)
2. 村上弘志(宇宙科学研究本部)
3. 2008年4月1日

立教大学理学部物理学科教員(助教)

1. 2007年9月(第100巻9号)
2. 西條統之(University of Southampton)
3. 2008年4月1日

東京工業大学大学院理工学研究科 基礎物理学専攻教授

1. 2007年9月(第100巻9号)
2. 中村隆司(東京工業大学大学院理工学研究科基礎物理学専攻准教授)
3. 2008年4月1日

鹿児島大学理学部物理科学科 宇宙情報講座准教授

1. 2008年1月(第101巻1号)
2. 今井 裕(鹿児島大学理学部助教)
3. 2008年3月1日

研究助成

研究助成(財)天文学振興財団 平成20年度研究助成の再公募について

当財団では、国立天文台の事業支援等を通じて天文学の振興を図っておりますが、平成20年度公募種目「研究助成」について1月31日を締切りとして公募いたしましたでしたが応募者がいなかったため、下記のとおり再公募します。

1. 公募種目: 研究助成
 - (a) 天文学に関する優れた研究活動を行うとする個人又は団体の代表者、原則として35歳以下
 - (b) 1件100万円以下、平成19年度は該当者1名
2. 申込期限: 平成20年5月30日
3. 選考結果: 選考委員会で審査の上、採択の可否については、申込期限の約1カ月以内に文書で通知します。
4. 報告: 研究完了後1カ月以内に報告書を提出して頂きます。
5. 申請: 申請書は事務室あてに請求して下さい。
6. 問合せ先: (財)天文学振興財団事務室
〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台内
Tel: 0422-34-8801
Fax: 0422-34-4053

平成20年度(第49回)東レ科学技術賞・ 研究助成の候補者推薦のお願い

東レ科学振興会から次の概要が届きましたのでお知らせいたします。

I. 東レ科学技術賞(概要)

1. 候補者の対象……天文学に関する分野で、下記に該当するもの
 - (1) 学術上の業績が顕著なもの
 - (2) 学術上重要な発見をしたもの
 - (3) 重要な発明をして、その効果が大きいもの
 - (4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したもの
2. 科学技術賞……1件につき、賞状、金メダルおよび賞金500万円、2件前後
3. 候補者推薦件数……天文学会から2件以内

II. 東レ科学技術研究助成(概要)

1. 候補者の対象……天文学に関する分野で、国内の研究機関において自らのアイデアで萌芽的基礎研究に従事し、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者(原則として推薦時45歳以下)
2. 研究助成……総額1億3千万円、1件3千万円程度まで10件程度
3. 候補者推薦件数……天文学会から2件以内

III. 天文学会必着日(I, IIとも)……平成20年9月10日(水)学会締め切り

※推薦書用紙は学会事務所まで(6月中旬)

※各推薦書用紙は、ホームページからもダウンロードできます(平成20年6月中旬頃から可)。

URL: <http://www.toray.co.jp/tsf/index.html>

会務案内

【理事会議事録】

日時: 2008年1月12日(土) 13:00~16:45

場所: 東京八重洲ホール地下一階A会議室

出席者: 土佐, 國枝, 柴橋, 花岡, 高田, 北本, 田村, 堂谷, 渡部, 中本, 比田井, 嶋作, 高羽, 福田
有効表決状提出者: 和田
他に東條事務長が出席した。

議事に先立ち花岡, 高田両庶務理事を署名人とすることが了承された。

報告

1. 前回議事録の確認

資料1に基づき前回議事録について高田庶務理事より報告があり確認された。

2. 記念切手に関する報告

北本会計理事より天文学会100周年の記念切手について口頭により報告が行われた。日本郵便によ

ば、デザインは年末に印刷会社に送られ、130万シートが発行される予定とのことである。

この件について報道発表が1月18日14時より国立天文台において行われる予定。デザインについては記者発表以降にリリース可能となる。

また、3月の100周年記念講演会・祝賀会出席者に記念切手を配布するときに使われる「たとう」については2月はじめに注文がされることが紹介され、何部作成するかについては早急に決める必要があることも報告された。「たとう」の中に書かれる切手のデザインの説明文案について配付資料により説明があり、不備な点等について指摘がなされた。日本郵便から天文学会への切手の贈呈式を記念式典中に行うこともあわせて報告された。

また、この切手を天文学会が直接売るのは困難な状況であるが、公共天文台、科学館で切手販売が許可されているところでは販売可能であることも報告された。

3. 2010年までの年会開催地について

高田庶務理事より2010年秋までの年会開催地について資料2に基づいて説明があり、懸案であった2010年度については春は広島大学、秋は金沢大学において行うことが提案され、了承された。

なお、複数の理事より他の学会の日程との重複がある場合が最近多々あり、不便であるとの指摘が学会員より出ている点が報告され、年会主催者をお願いする時に、日程を決める際にその点を考慮するように念を押す必要があるとの意見が出された。

4. 百周年記念講演会・祝賀会の申し込み状況について

柴橋副理事長より資料3及び追加の配付資料により春季年会上先立ち3月23日に開催される百周年記念講演会・祝賀会について説明がなされた。

現在の記念講演会及び祝賀会の出席申込者数がそれぞれ111人、79人であること、天文月報の折り込み記事や案内状の送付は既に行っている点、しかしながらまだ収容能力に対して余裕があることが報告された。

一般科学・天文関係雑誌に紹介コラム掲載を依頼中であり、ポスター作成や新聞における紹介コラム掲載も予定されており、今後も宣伝を続けていく旨報告された。また10ページ程度のパンフレットを用意する予定であり、現在原稿を要請中であることも紹介された。

また、招待客の人は進んでいるが、海外の招待客についての旅費の支払い等については招待状に対する返事を見ながら、会計理事とよく相談して決め

る予定であることもあわせて報告された。

5. 2008年春季年会について

嶋作開催地理事より配付資料に基づいて2008年春季年会の準備状況について報告が行われた。開催日程は3月24日～27日と最終的に確定したこと、初日開始は午後から、最終日は午後4時までセッションがあること、午前中は開始を10時とすることが報告された。講演会場は7つ、ポスター会場は3カ所に分かれること、ポスターボードの設置と撤収は業者に委託したこと、懇親会については3月26日に行われる予定で担当業者が決定したこと、事前申し込み方式（岐阜大での方法にならう）を採用することもあわせて報告された。

特別セッションは長期計画とALMAについての2セッション、それ以外にも特別講演や教育フォーラムが予定されている点が説明された。

また、ジュニアセッションが通常より規模が大きめとなり、さらに今回はジュニアだけで別のセッション（3月26日で100人規模）も行うこともあわせて報告された。

記者発表は3月23日に記念講演会会場で13時から開始であることも説明された。

なお、注意事項として会場の部屋、廊下等での飲食は禁止で禁煙でもあったことも説明された。

教育フォーラムの中身について渡部教育理事より口頭で説明があり、3月25日17時半～19時に開催予定で、テーマは「今求められる天文学、天文教育とは」として4名の方に話題提供を頂く予定であると報告された。

6. その他

(1) 学術振興会 科研費の女性審査委員候補者の登録について

男女共同参画委員会の委員長である黒田氏より、学術振興会から依頼された科研費の女性審査委員候補者の登録について、望月優子氏を推薦したとの報告があったことが高田庶務理事より口頭で報告が行われた。

(2) 公開講演会（一般向け）について

渡部教育理事より資料4に基づいて「日本天文学会公開講演会 一学会100周年を記念して」の準備状況について報告が行われた。

3月29日11時～17時の予定で有楽町朝日ホールで開催すること、第一部と第二部に分けて4名の講演者による講演が行われることなどが報告された。

(3) 東アジア天文学会議

土佐理事長より東アジア天文学会議において参

加国間の交流をより深めるための意見交換が行われた旨の報告が口頭であり、韓国との共同による学会開催の可能性などが議論され始めているなどについて説明が行われた。

(4) 学会 100 周年記念展示について

國枝副理事長より学会 100 周年記念展示に関する進捗について口頭で報告が行われた。世界天文年の動きと歩調を合わせる形で 2009 年の 5 月から 7 月に国立科学博物館で、その後仙台、名古屋、大阪の順番で回る巡回展を行うことが確定したこと、展示内容についてはまだまとまてはいないが、実行体制などを議論中であることが報告された。今後議論を尽くして科学博物館に対する提案書の形にまでもっていく予定であること、資金調達については今後も努力が必要であることなどもあわせて紹介された。

(5) 世界天文年について

渡部教育理事より世界天文年についての活動状況について口頭により説明が行われた。寄付を募るときの説明用パンフレットを作成（配付資料）したこと、その他にも今後いろいろな企画を準備している点が報告された。

議 題

1. 新入会員の承認

高田庶務理事より新規加入者等についての報告が資料 5 により行われ承認された。またあわせて退会者等の報告が行われた。

2. 2007 年度事業報告書案

高田庶務理事より 2007 年度事業報告書案が資料 6 により説明された。内地留学奨学金選考委員会の報告についての記述において、事業として 2006 年度に選んだ人に対して支援を行った点が書かれていないとの指摘があり、支援事業の一環として書き記すべきであるとの指摘がなされた。指摘された点を修正することを条件として 2007 年度事業報告書案は了承された。

3. 2007 年度決算報告書案

田村会計理事より資料 7 に基づいて 2007 年度決算報告書案が説明された。2007 年度は全体としては前年度までの黒字からは転じて大きくはないが赤字になった点、PASJ の部分の出入りが大きかったこと、出版費に対する補助金が減ってきている点などが指摘された。

早川基金の使い方について毎年大きな黒字が出ているとの指摘があり、基金の今後の運用方法については検討をしていくべきであるとの認識で一致し

た。それに関して、早川基金は寄付をベースとした基金であり、運用方法には工夫が必要であることを考慮しなければならない点もあわせて指摘された。また、学術交流費について補助金にかなり余裕がある点についても指摘があり、補助額の増額など今後対応をしていく必要がある旨了承された。

上記議論を経た上で、2007 年度決算報告書案は承認された。

4. 2007 年度監査報告

高田庶務理事より資料 8 に基づいて監査報告書について説明が行われた。1 月 10 日に監査が行われ、文言の修正を除いて 2007 年度の事業報告及び決算報告が正当であると認められたことが報告された。

5. 2008 年春季総会議題等

高田庶務理事より資料 9 に基づいて 2008 年春季総会議題等について説明があった。指摘事項の修正の後、承認された。

6. 早川基金の運用変更に関する提案

北本会計理事より資料 10 に基づいて、栗木早川基金選考委員長からの早川基金の運用方法の変更と、それに対応する内規の変更に関する提案について説明が行われた。援助費目を「滞在費＋参加登録料」に対しても広げること、同じ援助費目について他資金からの二重取りは禁止する点を強調することなどが提案された。運用案が提示され、今年度で試験的に導入して様子を見たいとのこと。滞在費の上限を設けたり、滞在に関する証拠資料の提出を求めること等で健全な運営を心がけることが提案された。報告書をきちんと出してもらってから経費は払う等の運用規則を明示する必要性が指摘された。指摘された修正を施して承認され、評議員会に議案として送られることとなった。

7. 衛星設計コンテスト推進委員会に関する内規

北本会計理事より資料 11 に基づいて衛星設計コンテスト推進委員会を設置するための内規の案について説明があった。前回の理事会及び評議員会における議論を反映させる形で改訂したもの。学会が委員会を設置することで今後も継続的に関わっていく必要があることが強調されている。了承し評議員会に諮ることとした。

8. 指定管理者制度に関する共同声明について

花岡庶務理事より資料 12 に基づいて指定管理者制度に関する共同声明について説明が行われた。天文教育普及研究会が中心になってまとめた声明に天文学会も名を連ねて欲しいという要望。天文施設への指定管理者制度の導入に関する憂慮を表明したものである。

問題点として、この声明はどこに向かってアピールすることを想定しているのかがよくわからないという点が指摘された。実効性を持った声明にする必要があるのでは、アピール先を意識したものになる必要があるとの認識で一致した。どれぐらいの影響が導入後あったのか具体的な数字を出すなどして、事情に精通していない人にもわかるようにすることが必要であろうとの意見が出された。

今回の議論内容を天文教育普及研究会に伝えて今後も検討を継続することとなった。

9. プラズマ共催セッションについて

中本年会理事より世話人である松元氏の代理として、今後のプラズマ共催セッションの開催方針について資料13に基づいて説明があった。2007年秋の年会でのセッションも大変好評であったため、今後も継続する方向で動き始めたこと、3年後の天文学会年会中の開催を承認してもらいたい旨要請があった。

また追加の配布資料によって、参加費・講演登録費について、他学会所属の発表者、及び事前に登録した非発表者についても天文学会会員と同じとした旨提案された。

議論の後、原案どおりで承認された。

10. その他

堂谷 PASJ 理事より口頭で提案があった。

(1) PASJ の総索引号の発行について、10年に1回の発行のタイミングが近づいているが、PASJ 編集部としては冊子での発行はやめようと思っているが、その点について意見をもらいたい。

(2) PASJ のレビューについて、林 忠一郎賞受賞者をお願いする案が浮上しているが、その点どのように考えるか。

(1) については不要との意見が多く、他の雑誌の状況も調べつつその方向で検討することとなった。

(2) については案としては妥当な線であるが、詳細を検討後、提案の形で起案してもらいたい旨指摘があり、了承された。

今回は春季年会開催中に行う。

2008年2月13日

議長 土佐 誠 ㊟
 署名人 花岡庸一郎 ㊟
 署名人 高田 唯史 ㊟

【評議員会議事録】

日時：2008年1月26日（土）13時～16時50分
 場所：東京八重洲ホール8階会議室

出席者：井上、岡村、海部、郷田、須藤、中川、宮川、渡部、家、坂田、佐藤、谷口、筒井、望月、山田の各氏（15名）

有効表決状提出者：永田、池内、観山の各氏（3名）

欠席者：杉山、柴田の各氏（2名）

他に、理事会より土佐理事長、柴橋副理事長、花岡、高田、北本、田村の各理事、井田研究奨励賞選考委員、山岡天体発見賞選考委員長、東條事務長が出席した。

議事に先立ち、議長に井上氏、署名人として家、谷口両氏を選出した。

報告

1. 前回議事録の確認

高田庶務理事より前回の議事録が資料1に基づいて説明され承認された。

2. 2008年春季年会について

高田庶務理事より資料2に基づいて2008年春季年会の準備状況について報告が行われた。

3月24日（月）～27日（木）に代々木のオリンピックセンター内で開催、初日は午後開始で最終日は16時まで。総会、懇親会などは3月26日（水）にまとめて行われることもあわせて報告された。講演会場は7会場で、ポスター会場は3カ所に分かれる。記者会見は3月23日（日）に記念講演会の会場で、

3. 記念切手に関する報告

学会創立百周年の記念切手の現状について北本会計理事より口頭で報告が行われた。1月18日に日本郵便・天文学会で報道発表を行った。確認したところでは4つの新聞等で報道があった。報道発表時に使用された資料を閲覧し、また、記念式典で参加者に配る際の「たとう」のデザイン案についても閲覧された。今後、式典配布のための注文数を確定して発注する予定。

4. 2010年までの年会開催地について

2010年までの年会開催地について高田庶務理事より資料3に基づいて説明があった。懸案であった2010年度については春は広島大学、秋は金沢大学において行うことが決定した旨報告された。

5. 百周年記念講演会・祝賀会の申し込み状況について

柴橋副理事長より資料4に基づいて百周年記念講演会・祝賀会の申し込み状況について説明が行われた。1月22日現在、記念講演会135名、祝賀会93名

の申込者があった。また、3月23日の記念講演会のプログラム案も示された。

また、招待をする方のリストも示され、現在コンタクトを行っている最中であることもあわせて報告された。ポスターを既に各大学や公共天文台等に発送したこと、まだ申込者が少ないので宣伝に今後も努める必要がある点が強調された。

6. 2007年度早川基金採択一覧表

高田庶務理事より資料5に基づいて2007年度早川基金採択者一覧が示された。

7. プラズマ共催セッションについて

高田庶務理事より、資料6に基づいて、日本物理学会、日本地球電磁気・惑星圏学会、日本天文学会によるプラズマ共催セッションの今後の開催方針について説明があった。好評のため、3学会の持ち回りの2巡目に入ることを決めたこと、天文学会にて行うのは2010年度となることが報告された。

また、他学会からの参加者についての登録料について、天文学会会員と同等に扱えるよう現在検討中であることもあわせて報告された。

8. その他

(1) 公開講演会について

渡部教育理事より、資料7に基づいて日本天文学会公開講演会一学会創立百周年を記念して一について説明が行われた。

3月29日(土)11時~17時に有楽町朝日ホールで開催予定。テーマは「天文学—これまでの百年、これからの百年」として、第1部を「天文愛好家と天文研究者の百年」として、また第2部を最新の天文学の紹介として行うことを予定。

(2) 世界天文年について

海部氏より2009年の世界天文年についての準備状況について口頭で説明があった。募金委員会の活動は今後本格化すること、プラネタリウム協会、公開天文台、天文教育普及研究会等の協力をおおぎながら進めていることが紹介された。

また、天文学会として後援会に取り組んでいただけないかとの要請があり、今後検討することとした。

パンフレットが配布された。企画委員会では種々の企画検討が進んでおり、国際共同では東アジアの星の民話・神話を集めて出版する計画があることなどが紹介された。

また、渡部氏より配付資料に基づいて、「世界天文年2009 星空ブックフェア—本をまくらに宇宙を見よう—」の企画について説明が行われた。

2009年中、天文学・宇宙科学に関する出版物を広

く世間にアピールすることが目的。全国書店に特設スペースの設置をするなどのプログラムを用意する予定とのこと。

また、柴橋副理事長より、天文学会が中心になって企画している望遠鏡の歴史についての巡回展の説明が口頭で行われた。2009年6月~9月の国立科学博物館を皮切りに、仙台、名古屋、大阪を回る予定。

世界天文年に関して日本における予算規模について質問があり、まだ未定であり、検討中であることが示された。

議 題

1. 2007年度各賞受賞者の決定

(1) 天体発見賞・天体発見功労賞・天文功労賞

資料8-1及び回覧資料に基づいて、天体発見賞・天体発見功労賞・天文功労賞の選考結果について山岡天体発見賞選考委員長より報告が行われた。

天体発見賞については11氏18件の候補が推薦され、下記のように受賞者が決定された。

板垣公一氏(7件)、中村祐二氏(2件)、土井隆雄氏(1件)、多胡昭彦氏(1件)、西村栄男氏(1件)、櫻井幸夫氏(1件)、安部裕史氏(1件)、内藤博之氏(1件)、市村義美氏(1件)、金田 宏氏(1件)、広瀬洋治氏(1件)

天体発見功労賞については4氏5件の候補が推薦され、下記のように受賞者が決定された。

櫻井幸夫氏(1件)、西村栄男氏(1件)、中村祐二氏(1件)、多胡昭彦氏(2件)

天文功労賞の長期的な業績については13件12氏の中から1件の候補が委員会により推薦され、下記のように受賞者が決定された。

浦田 武氏

また、短期的な業績については5件6氏の中から3件4氏の候補が委員会により推薦され、下記のように受賞者が決定された。

内那政憲氏、西山浩一氏、梶島富士夫氏、板垣公一氏

なお、推薦書類の文面については表現をよく検討して修正するべきであることもあわせて了承された。

(2) 研究奨励賞

井田研究奨励賞選考委員より、資料8-2に基づいて、研究奨励賞の選考及び受賞候補者について説明が行われた。過去最多の13件の推薦があり、3氏について委員会から推薦を行う旨説明があ

り、議論の後、下記のように決定した。

大内正己氏、高田昌広氏、野村英子氏

(3) 林 忠四郎賞、欧文研究報告論文賞

土佐理事長より資料 8-3 に基づいて林 忠四郎賞、欧文研究報告論文賞についての選考過程と候補者の推薦が行われた。

林 忠四郎賞については 4 名の候補者の中から 1 名を推薦することが委員会より提案され、下記のように決定した。

嶺重 慎氏

欧文研究報告論文賞については 4 編の候補より 2 編を推薦することが委員会より提案され、業績の説明文書の表現について修正を加えることを条件に下記のように決定した。

- I. Iwata, et al., Lyman Break Galaxies at $z \sim 5$: Luminosity Function

第 55 巻 415-432 頁 2003 年

- T. Goto, et al., The Environment of Passive Spiral Galaxies in SDSS

第 55 巻 757-770 頁 2003 年

なお、選考過程について一般からの推薦件数が少ない点が指摘されたほか、この賞は元々科学的な意義の高さを評価することが目的になっていたはずが、近年引用件数などに左右されすぎていないかとの意見が出された。今後の選考委員に対して過去のいきさつ等を正しく伝えるべきであるとの意見で一致した。

2. 2007 年度事業報告書案

高田庶務理事より資料 9 に基づいて 2007 年度事業報告書案が示された。百周年記念出版事業「シリーズ 現代の天文学」についての補足が岡村氏より口頭で行われ、現在 9 巻目は刊行されたこと、他の巻についても目処はついているので、2008 年の早いうちには全て刊行できる見通しであることが示された。これについて、図版の電子版での配布はないのかとの質問が出され、その点については出版社と相談をする必要があるとの見解が示された。

また、男女共同参画委員会の報告の中での、女性天文学者有志の会の活動について、ハワイに限定されたものではない旨修正が必要であるとの指摘がなされた。

指摘事項を修正することを条件として承認された。

3. 2007 年度決算報告書案

田村会計理事より資料 10 に基づいて 2007 年度決算報告書案について説明があった。

2007 年度は全体としては前年度までの黒字から

は転じて大きくはないが赤字になった点、PASJ の部分の出入りが大きかったこと、出版費に対する補助金が減ってきている点などが指摘された。なお、天文財団においては一部資金については外国金融機関を活用して資金運用をしているとの紹介があり、今後、天文学会においても資金運用については少々工夫をする必要があるかもしれないとの意見が出された。

4. 2007 年度監査報告

高田庶務理事より資料 11 に基づいて、1 月 10 日に行われた監査について報告が行われた。

2007 年度の事業報告及び決算報告についてそれぞれ監査が行われ、若干の修正の必要性以外は問題なしとの判断をされた旨、報告された。

5. 2008 年度春季総会議題等

高田庶務理事より資料 12 に基づいて 2008 年度春季総会議題等の案について報告が行われ、原案どおり承認された。

6. 早川基金の運用変更に関する提案

早川基金の内規変更に関する提案と、変更後の運用案について、粟木早川基金選考委員会委員長の代理として北本会計理事より資料 13 に基づいて説明が行われた。

内規変更については前回提案時に指摘された文言の不明瞭性を改良した案が提出された。

また、運用案として、援助費目を「滞在費+参加登録料」に対しても広げること、同じ援助費目について他資金からの二重取りは禁止する点を強調することなどが提案された。

また、理事会での議論として、早川基金の運用の仕方そのものについて年額 270 万円の予算を組んでいるが、毎年 500 万円の寄付が行われ続けてかなり大幅な黒字が出ている点を考慮して、予算をもう少し多めにとっても良いのではないかとの議論があることが紹介された。

委員からは、運用方法を考える上で、現在の応募者の状況の分析が必要である点、元々は早川基金選考委員会委員長にある程度の予算的な裁量が認められているはずである点などの指摘が行われた。また、現実的には大学院生に対する支援がもっと必要ではとの意見も出され、現状を正しく把握するため、若手の会の代表の評議員を中心に実務理事が協力して、詳細な状況を把握するために、1 年ほどをかけて調査をする必要があるとのことで意見が一致した。

内規については変更案どおり決定し、運用方針については上記調査結果を見ながら検討を続けること

を条件として了承された。

7. 衛星設計コンテスト推進委員会に関する内規

北本会計理事より、資料 14 に基づいて、背景の説明と小委員会として設置する目的の説明が行われた。前回の理事会及び評議員会における議論を反映させる形で改訂した内規案が示され、学会が委員会を設置することで今後も継続的に関わっていく必要があることが強調された。議論の後、原案どおり決定した。

8. 指定管理者制度に関する共同声明について

花岡庶務理事より、資料 15 及び追加の配付資料に基づいて、指定管理者制度に関する共同声明について、天文学会にも声明に加わって欲しい旨、天文教育普及研究会の松村氏から要望が届いていることが紹介された。

委員からはアピールそのものについての意義は大いに認めるとの意見が出された一方、せっかく行った調査の結果はもっとわかりやすく説明するべきである、制度導入による具体的な問題例を書き記すべきであるといった意見が出された。また、現在の案は地方公共団体に対してのアピール用になっているように見えるが、アピール先によって文案をもう少し変えるべきであろうとの意見も出された。今後は理事会を中心にして積極的に関わっていくこと、教育委員会を通じて学会側のコンタクト役の適任者を見つけ、展開をはかって行くことが了解された。

9. 会費未納による除名者名簿

高田庶務理事より会費未納による除名者名簿が資料 16 において示された。除名を行った旨を該当者に通知すること、その該当者が未納分の会費を支払った場合は引き続き継続して会員として認められることを確認して承認した。

10. その他

(1) 学術振興会からのメッセージ

家氏より科学研究費補助金に関する審査について、関係者の協力に対する感謝が述べられたと同時に、審査におけるの問題点について指摘が行われた。具体例として審査を引き受けたができなかった等の例があり、今後、そのような点については注意して欲しい旨要請があった。

(2) 百周年の教科書の韓国における出版についての動き

岡村氏より、百周年記念出版である天文教科書「シリーズ 現代の天文学」を翻訳して韓国で出版したいという話が個人的に寄せられていることが紹介された。1,000 部ほどの販売を考えていること、翻訳については金斗煥氏が全て行う意欲を

持っていること、出版元の日本評論社に対しては既に金氏の依頼を受けた韓国の出版社が料金の打診を始めていること等が紹介された。委員からの意見として翻訳体制がしっかりしていないのではないかと指摘がなされ、韓国の天文学会などの全面的なバックアップなど、翻訳・査読体制について強化するべきではとの意見で一致した。指摘点を岡村氏より金氏にも伝え、今後の方向性を探ることとなった。

(3) 学術会議の将来計画シンポ

佐藤氏より 12 月 28 日に行われた学術会議の将来計画シンポジウムに関する報告が行われ、今後 1 年をかけて将来計画を作成していく予定であることが紹介された。また、5 月 31 日、6 月 1 日に、今考えられている具体的プロジェクトについて理解を深めるため第 2 回目のシンポジウムを開催すること、近くプロジェクト計画者に対して講演募集のアナウンスを出すことが紹介された。

また、春の年会で将来計画に関する特別セッションも行われるので、特に若手を中心に多くの参加者を期待したい旨、あわせて報告された。

今回は春季年会中に開催、次々回は 7 月 5 日となった。

なお、次々回の開催場所は東京駅の近辺で、緊急時の対応も考慮した会議場にした旨複数委員から意見が出され、事務局の方で検討することとなった。

2008 年 2 月 20 日

議長 井上 一 ㊟
署名人 家 正則 ㊟
署名人 谷口義明 ㊟

その他

第 16 回衛星設計コンテスト

本コンテストは、全国の大学院、大学及び高等専門学校、宇宙に関わる基礎・応用研究を積極化する機会を提供し、併せて我が国の宇宙開発のすそ野の拡大に寄与しようとするものです。学生の自由な発想による小型衛星をはじめとするさまざまな宇宙ミッションのコンセプト、アイデア、設計構想等を全国から募集し、審査の上優秀な作品を寄せたグループ〔または個人〕を表彰します。

主催：日本機械学会，日本航空宇宙学会，電子情報通信学会，地球電磁気・地球惑星圏学会，日本天文学会，宇宙航空研究開発機構，宇宙科学振興会，日本宇宙フォーラム

後援：文部科学省，総務省

応募方法：応募区分「設計の部」，「アイデアの部」および「ジュニアの部」

設計条件および応募方法等の詳細に関しては，日本宇宙フォーラムのコンテストホームページ

(<http://www.jsforum.or.jp/event/contest/index.html>)

でご確認下さい。

「設計の部」では衛星設計の確実さを，「アイデアの部」では提案するミッションの独創性・有用性を競います。「ジュニアの部」は自由な発想で宇宙に活用できそうなアイデアに富んだ衛星を提案して下さい。詳細な設計は必要ありません。

応募資格：「設計の部」，「アイデアの部」は大学院，大学，高等専門学校及び高等学校等の学生のグループ〔または個人〕，「ジュニアの部」は高校生のグループ〔個人参加も可能〕を対象とします（グループの場合は指導教官を含んでも構いません。また，異なる学校等の学生からなる合同チームでも構いません）。ただし，1グループは10名以内と制限させていただきます。

スケジュール

参加登録受付	2008年4月1日（火）～5月30日（金）
作品応募締切	2008年7月15日（火）必着
第1次審査結果通知	2008年8月下旬
最終審査会	2008年11月2日（日）
最終審査会会場	一橋記念講堂（東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号）

審査：

第1次審査 書類審査により10～15件程度を選定
最終審査 発表会形式の審査会にて第1次審査合格者の中から，設計大賞・アイデア大賞・ジュニア賞および主催学会等からの賞・審査員特別賞を選定する。

コンテスト参加登録料：3,000円

（参加登録料は参加をご辞退された場合でもお返しできませんのであらかじめご了承ください。）

参加ご希望の方は，募集要領及び参加登録様式をホームページからダウンロード頂くか，下記申込先に電話か電子メール等でご請求下さい。

申込先：〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1
新大手町ビル7階
（財）日本宇宙フォーラム衛星設計コンテスト事務局（担当：武石/渡辺）
Tel: 03-5200-1301/Fax: 03-5200-1420
e-mail: satcon16@jsforum.or.jp
Web: <http://www.jsforum.or.jp/event/contest/index.html>

2007年度日本天文学会各賞について

2007年度日本天文学会各賞は1月26日の評議員会で，次のように決定しましたのでご報告します。

◎天体発見賞（11氏18件）

- 板垣公一（いたがき こういち）氏：超新星2007Bの発見，超新星2007Cの発見，超新星2007afの発見，超新星2007cdの発見，超新星2007giの発見，超新星2007gwの発見，超新星2007kjの発見
- 中村祐二（なかむら ゆうじ）氏：新星 さそり座V1280の発見，新星 さそり座V1281の発見
- 土井隆雄（どい たかお）氏：超新星2007aaの発見
- 多胡昭彦（たご あきひこ）氏：新星 はくちょう座V2467の発見
- 西村栄男（にしむら ひでお）氏：新星 へびつかい座V2615の発見
- 櫻井幸夫（さくらい ゆきお）氏：新星 いて座V5558の発見
- 安部裕史（あべ ひろし）氏：新星 こぎつね座V458の発見
- 内藤博之（ないとう ひろゆき）氏：超新星2007igの発見
- 市村義美（いちむら よしみ）氏：超新星2007ssの発見

- 金田 宏 (かねだ ひろし) 氏: 新星 こぎつね座 V459 の発見
- 広瀬洋治 (ひろせ ようじ) 氏: 超新星 2007uy の発見

◎天体発見功労賞 (4 氏 5 件)

- 櫻井幸夫 (さくらい ゆきお) 氏: 新星 さそり座 V1280 の独立発見
- 西村栄男 (にしむら ひでお) 氏: 新星 さそり座 V1281 の独立発見
- 中村祐二 (なかむら ゆうじ) 氏: 新星 へびつかい座 V2615 の独立発見
- 多胡昭彦 (たご あきひこ) 氏: 新星 へびつかい座 V2615 の独立発見, 新星 こぎつね座 V459 の独立発見

◎天文功労賞 (5 氏 4 件)

(長期的な業績)

- 浦田 武 (うらた たけし) 氏: 太陽系小天体の発見と軌道計算

(短期的な業績)

- 内那政憲 (うちな まさのり) 氏: 日本初の SOHO 彗星の検出
- 西山浩一 (にしやま こういち) 氏: 銀河系外の新星を多数検出
- 椋島富士夫 (かばしま ふじお) 氏: 同上
- 板垣公一 (いたがき こういち) 氏: きわめて特異な星の最期の姿を検出

◎研究奨励賞 (3 氏 3 件)

- 大内正己 (おおうち まさみ) 氏: **Carnegie Fellow**
研究テーマ: 「遠方宇宙における銀河進化と構造形成の研究」
- 高田昌広 (たかだ まさひろ) 氏: 東北大学大学院・助教
研究テーマ: 「重力レンズ効果を用いた観測的宇宙論の研究」
- 野村英子 (のむら ひでこ) 氏: **Queen's University**・研究員
研究テーマ: 「星・惑星形成領域の物理・化学構造モデルの構築」

◎林 忠四郎賞 (1 氏 1 件)

- 嶺重 慎 (みねしげ しん) 氏: 京都大学基礎物理学研究所・教授
研究の表題: 「ブラックホール降着流理論と観測による検証」

◎欧文研究報告論文賞 (2 編)

- 論文: Lyman Break Galaxies at $z \sim 5$: Luminosity Function
PASJ vol. 55 (2003) pp. 415–432
著者: Ikuru Iwata, Kouji Ohta, Naoyuki Tamura, Masataka Ando, Shinpei Wada, Chisato Watanabe, Masayuki Akiyama, and Kentaro Aoki
- 論文: The Environment of Passive Spiral Galaxies in the SDSS
PASJ vol. 55 (2003) pp. 757–770
著者: Tomotsugu Goto, Sadanori Okamura, Maki Sekiguchi, Mariangela Bernardi, Jon Brinkmann, Percy L. Gómez, Michael Harvanek, Scot J. Kleinman, Jurek Krzesinski, Dan Long, Jon Loveday, Christopher J. Miller, Eric H. Neilsen, Peter R. Newman, Atsuko Nitta, Ravi K. Sheth, Stephanie A. Snedden, and Chisato Yamauchi

(社)日本天文学会へ入会された方(2007.8.22~2008.1.12), 退会された方(2007.8.22~2008.1.26)をお知らせ致します。

正会員入会者 (34名)

杉田聡司	青山学院大・大学院 (在学)	戸泉貴裕	東京工業大・大学院 (在学)
野村英範	広島大・大学院理 (在学)	甲斐隆志	熊本大・大学院 (在学)
橋目敏行	JFE スチール(株)西日本製鉄所	川村雅之	大阪府立大 (在学)
江村尚美	金沢大・大学院 (在学)	百瀬莉恵子	東京大・大学院 (在学)/国立天文台
竹内 駿	大阪教育大 (在学)	菅原知佳	山形大・大学院 (在学)
児玉芳樹	金沢大・大学院 (在学)	中村友彦	東京大・大学院理・天文学教育研究センター (在学)
松田桂子	埼玉大・理 (在学)	田中 誠	山形大・大学院理工 (在学)
横田 聡	金沢大・大学院理 (在学)	中上祥吾	熊本大・大学院 (在学)
勘田裕一	大阪教育大・大学院 (在学)	梶野裕喜	京都大・大学院理 (在学)
工藤祐允	東京工業大・大学院 (在学)	遠藤 輝	埼玉大・大学院理 (在学)
松本 仁	京都大・大学院理 (在学)	井手上祐子	愛媛大・大学院理工 (在学)
原山 淳	東京理科大 (在学)/理化学研究所	田中宗親	神戸大・大学院理 (在学)
松岡健太	愛媛大 (在学)	設楽賢司	北海道大・大学院 (在学)
岩橋孝典	東京理科大 (在学)/理化学研究所	高橋 隼	神戸大・大学院理 (在学)
古川尚子	名古屋大・大学院理 (在学)	久保井彬仁	東京大・大学院 (在学)/国立天文台
森 由希	東京工業大・理 (在学)	佐藤大介	筑波大・大学院 (在学)
佐野 武	京都大・大学院理 (在学)		
園田隼一	熊本大・大学院 (在学)		

準会員入会者 (10名)

武田定義	近畿大・理 (在学)	関 勉	高知市在住
麻畑 仁	プレアデス出版	土屋晴文	理化学研究所
渡邊彩香	東邦大 (在学)	後藤田直義	札幌市在住
瀧川 晶	東京大・大学院理 (在学)	伊藤篤史	東京大・大学院理 (在学)
渡辺文雄	上田創造館	岩田 実	中津川市在住

賛助会員入会 (1社)

朝日分光(株)

移籍会員 [準→正] (2名)

森永修司	東京大・大学院 (在学)	荒尾考洋	鹿児島大・大学院 (在学)
------	--------------	------	---------------

移籍会員 [正→準] (16名)

青山隆司	谷川清隆	宮地崇光	浅井紀久夫	田代基慶	小泉 修	石塚俊久	辻田丞治
湯谷正美	和田浩明	北村 剛	木下 宙	西村史朗	吉澤正則	長嶋千恵	村田孔孝

正会員退会者 (66名)

前田祐利	須崎亮平	疋田進一	中川真規	小野博之	中島廣一郎	山内洋平	鳥居研一
須田浩志	御子柴博文	前野 拓	富田浩行	大山 襄	稲垣省五	吉森正人	山本佳久
野澤悟徳	杉保 圭	森田うめ代	武智 亨	仲村忠弘	中村雄史	石神真慈	城山典久
渡辺直之	利川達也	福元貴志	黒住聡丈	佐藤康則	菊池礼奈	坂本彰弘	塩田 了
伊原千晶	野原隆司	奥野宏文	稲岡和也	中村佳代子	織田岳志	宮前克之	伊豫本直子
野田(土屋)祥代		鈴木崇弘	内藤聖貴	青木信仰	長江伸一	松葉龍一	大杉幸督
森本太郎	須藤 淳	岡 和孝	市坪太郎	山本則正	春日敏測	廣田晶彦	張替謙一
金井陽子	小林 純	久保井信行	川本 司	猪俣則智	白岩真弥	榎原匡俊	山下一芳
石塚知香子	橋田華絵	関根宗成					

準会員退会 (50名)

山下芳雄	溝尻 寛	塚本博則	高橋辰彦	高橋敏一	渋谷 彰	鈴木由秀	土屋兼一
佐々木孝一	木村直人	大石正幸	奥田光直	西澤 隆	川崎寿則	鈴木正敏	中澤一郎
成田信男	鶴飼正明	武田定義	中井 宏	島田浩平	田中良明	田村良明	豊川光雄
多胡昭彦	多賀正敏	江崎紀久雄	瀧川庸二朗	津田博美	吉野忠興	國分利幸	荻原哲夫
永井福郎	東樋口正邦	廣瀬 匠	柴田行男	常定芳基	小森長生	佐藤達雄	土屋照夫
中居理光	平野辰巳	松本義和	岡田 祐	永吉 勉	西田大輔	吉田岳彦	飯塚康至
伊藤純也	平澤 歩						

団体会員退会 (1団体)

茨城県自然博物館

.....

日本天文学会会員各位

日本天文学会百年史「日本の天文学の百年」の謹呈

日本天文学会は、今年2008年に創立百周年を迎え、記念事業の一つとして、日本天文学会百年史を編纂、「日本の天文学の百年」(恒星社厚生閣、2008年3月)として出版することができました。会員の皆様には、これまでの日本天文学会へのご支援に感謝して、ここに百年史「日本の天文学の百年」を謹呈いたします。

なお、この百年史が無事に完成を見ることができたのは、編集委員長の尾崎洋二氏をはじめ多くの方々の献身的な努力の賜物です。百年史の編纂にご協力いただいた皆様に深く感謝いたします。

2008年3月吉日

日本天文学会理事長 土佐 誠

和田桂一(編集長), 浅井 歩, 今西昌俊, 衣笠健三, 齋藤正雄, 寺田幸功, 戸谷友則, 三好 真, 矢野太平, 吉田直紀
 平成20年3月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社
 定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 Tel: 0422-31-1359 (事務所) / 0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
 日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

©社団法人日本天文学会 2008年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)